

峠の向こうは春

受験は、倍率ではありません。 自分の学力を高めることに最大 限の力を注いでいこう！

本日配布したように、京都府の「公立高等学校志願状況」が、発表されました。因みに同じ資料が明日新聞発表されます。

みなさんの中にも、自分の志望校の数字を見て、一喜一憂した人がいると思います。また、数字を見て、「第一志望校」を変更しようと思った人がいるかもしれません。

みなさんの進路希望は、みなさん自身（と保護者）で決めることなので、しっかり考えて判断をすれば良いと思います。しかし、そのためには、冷静に、情報を正しく読み解き、正しく理解する必要があります。

今回の「公立高等学校志願状況」について、以下の点に留意して理解してください。

①このデータは、11月10日時点のものである。

本校のデータも提出しましたが、そのデータは、「第3回進路希望調査」を元に作成しました。みなさんの中には、その「第3回進路希望調査」以降、希望を変えようと考えた人もいたように、京都府下の中3生の中にも、志望校を変更する人がいたのではないかと思います。この変更には、公立から私立への変更も、公立高校から別の公立高校への変更もあったと思います。

②今回のデータを見て、志望校を変更する人がいる。しかし、多くはない。

自分の志望校が高倍率であれば不安になりますから、別の高校へ志望を変える人が出ると思われます。ただし、第一志望は、自分にとってとても大切な「希望」ですから、多くの人は、それを変更しないと思います。だから、志願者数が倍増したり半減するような極端な状況にはなりにくいと思予想します。

③倍率＝難易度ではない。

新しい選抜制度も11年目になりました。みなさんの中には、去年の選抜結果を参考にして、志望校を決めている人もいるかもしれません。そして、多くの人が各校の「難易度」を意識し

ています。だから、希望者数だけで、「合格しやすい・しにくい」と決めつけることはできません。合格するためには、まず何よりも自分の学力を高めることが必要です。

④どんなに高倍率でも、合格する人はいる。

例えば、倍率が5倍であっても、その高校の志願者上位1／5は合格します。

だから、その中に入るように自分の力を高めることが必要です。

また、確実に合格できると予想できる私立の併願校を受験すれば、前期選抜や中期選抜の受験会場には、「私立高校の合格通知」を持って、（もちろん気持ちの中に）向かえます。何事についても全力を尽くすためには、適度なプレッシャーと適度なゆとりが必要です。

以上のことを踏まえた上で、公表された内容を見て下さい。倍率等の数字を見て、喜んだり悲しんだり、あるいは小手先の変更を考えたりするなどよりも大切なことは、**自分の学力を高めることにすべてのエネルギーを注ぐことです。**

これからできることは何か

さて、今日は11月29日です。多くの人が関わる私立入試のスタートまで、約2ヶ月です。

倍率、難易度、クラスの仲間の勉強の様子など、自分にとってプレッシャーがかかったり、不安になったりすることは多くあるでしょう。しかし、自分はなぜ〇〇高校に行きたいのか、高校に入学すれば何をしたいのか、そのことをこれまで何度も自問自答しながら考えてきたはず。自分の第一希望を握って離さず、入試の直前まで努力をし続けることが重要です。

さて、進路通信では、「教え合いのできるクラスは、良いクラス」と書きましたが、まさにその通りの結果となっています。クラスの仲間のしんどさを肌で感じる事ができるって、人としてとても大切なことだと思います。誤解を恐れずに言えば、いくら勉強ができて、いくらスポーツができたとしても、自分の好き嫌いで物事や人を判断したり、人を見下すような態度をとったりするならば、学力もスポーツ能力も無駄になってしまいます。秋以降、たくさんの公立高校・私立高校の先生方と話しましたが、いつも言われるのは、「スポーツや勉強ができれば良いというものではない。もちろん、そのことは本人の努力の成果ではあるが、社会に出て行く青少年を育てる立場で言えば、人として、まわりの人を大切にでき、他人のために力を尽くそうという人間を求めています。」ということです。このことをいつも聞きながら、学力を伸ばすと同時に、結局、人としてこれからの生活をどう過ごすか、まわりの仲間を大切にすることは何かを考えながら生きていくことが、とても大切であることを中学3年生であるみなさんに分かってほしいと思います。

仲間と一緒に受けるという意味を考えて、授業に全力で取り組んでいこう。
クラスの仲間を大切にすることはどういうことかを中学3年生として考えよう。
ヘルプを求める勇気を持とう、ヘルプに応える心を持とう！
教え合いができるクラスを目指して、クラス全員の進路実現を目指そう。
受験勉強を通して、クラスの仲間のことをほっとけない、そんな暖かい人間関係をクラスに築いていこう。

